



# 秋田県立ゆり支援学校 教育プラン

令和5年度～令和9年度

## I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

### 1 中・高等部生徒数の増加と、多様な実態に応じた教育課程の編成

本校は平成11年4月に開校(児童生徒数42名)、平成19年度には102名となったが、その後は90名程度で推移していた。しかし、令和になり徐々に近隣の小・中学校からの進学が増加し、令和5年度には125名、令和7年度には134名の児童生徒数となった。今後数年は同程度の児童生徒数で推移すると予想される。

児童生徒の構成は、全校の約半数を高等部生が占める状況が続いている。障害については、今後も小学部には重度の知的障害や肢体不自由を併せ有する児童が、中・高等部には特別支援学級や通常学級から軽度な知的障害や発達障害、精神疾患などを有する生徒が入学することが予想される。そのため、小学部から高等部まで一貫した教育を行うとともに、外部からの入学・転入学者の個々の教育的ニーズや障害特性を踏まえた教育内容や支援が求められる。また、家庭事情に対応した生活リズムの確立や将来の生活自立を目的とした寄宿舎入舎へのニーズ等、目的に合わせた寄宿舎活用について進めることが必要である。

### 2 コミュニティ・スクール(以下CS)を核とした地域と双方向の交流活動の推進

地域の小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流、プロスポーツチームとのスポーツを通じた交流活動などを積み重ね、地域における障害理解についても少しずつ進んできている。また、地域貢献活動についても奉仕活動や環境整備、作業学習交流、販売活動等を通して地域とのつながりが広がってきている。今後は、こうした活動について課題と成果を整理しながら系統的・継続的に実施していくことが求められる。地域との双方向の交流を目指し、CSディレクターともさらに連携し、児童生徒の卒業後の生涯学習に繋がる活動についても検討していく。

### 3 社会情勢・生活様式の変化、障害の多様化に対応した生徒指導、進路指導の充実

コロナ禍による社会的活動の制限を経て、感染防止対策を日常的なものとし教育活動を進めていく必要がある。また、ICT機器の活用、情報リテラシーも踏まえた生徒指導や、軽度な知的障害と精神的な疾患を併せ有する生徒への適切な指導や対応が必要とされている。また、各学部における段階的なキャリア教育の指導を推進するとともに、高等部卒業後に進路先から求められる資質・能力の育成も視野に入れた指導内容の充実を図っていく。

### 4 インクルーシブ教育システム構築のための地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、高等学校へのセンター的機能の実施及び充実

幼稚園・保育所を含む就学前の適切な教育相談や、小・中学校等において、特別な支援を必要とする児童生徒への適切な対応の在り方に関する助言が求められている。適切な支援が十分でないまま特別支援学校へという流れではなく、児童生徒が必要としている支援への具体的な助言や、継続的に繋がり段階的に多様な学びの場を提供できる支援を関係機関、特別支援教育コーディネーター等と連携して進めていく必要がある。

## II 目指す方向性・学校像や児童生徒の姿

### ○目指す学校像 ～地域と共に歩み、地域で育ち、地域に必要とされる学校～

- ・自立と社会参加を目指し、教育的ニーズに応じた適切な教育活動を展開する学校
- ・CSを活用し、特色ある教育活動を推進するとともに、地域交流・地域貢献を通して地域を元気にする学校

### ○目指す子ども像

- ・元気な子：心身共に健康で楽しくのびのびと生活する児童生徒
- ・がんばる子：興味や意欲をもって、主体的に最後まで活動に取り組む児童生徒
- ・思いやりのある子：友達を大切に、協力しながら活動する児童生徒

## Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

**目標 1** 多様な実態の児童生徒一人一人の成長と、卒業後の自立と社会参加を実現する一貫性のある教育活動の充実

**取組 (1) 一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成**

- ① 系統的な教科指導と将来の自立に向けた指導内容の充実
- ② 学習指導要領の着実な実施に向けた年間指導計画の内容と様式の検討・実施
- ③ 教科指導における教師の専門性を生かした学部間の柔軟な配置と連携
- ④ 児童生徒一人一人における自立活動の適切な目標・内容設定と教育活動全体を通じた指導の充実
- ⑤ 軽度な知的障害や発達障害等の障害特性の理解促進と情報共有

**取組 (2) 児童生徒自身が学びの積み重ねを実感できる授業実践**

- ① 全校縦割りで行う授業デザインミーティング等の効果的な実施
- ② 授業アドバイザーと連携したねらいや支援・手立ての明確化と評価を積み重ねる授業の実践
- ③ ICTを効果的に活用した指導方法の充実
- ④ 外部専門家（言語聴覚士、理学療法士、作業療法士等）を活用した教師の専門性の向上

**取組 (3) 段階的なキャリア教育の推進及び進路指導・生徒指導の充実**

- ① キャリア・パスポート（未来へのスケッチ）の全学部の活用における児童生徒の主体性の育成
- ② 生徒の実態に応じた段階的な職場体験・現場実習の実施や内容等の充実
- ③ 地域の特産品や地元の企業と連携した作業学習製品の開発
- ④ 寄宿舎の機能を生かした児童生徒の生活自立に向けた力の育成
- ⑤ 校内での縦割り交流活動の計画的な実施
- ⑥ 肯定的な自己理解を育てる段階的なキャリア教育と適切な生徒指導

**目標 2** インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、地域のニーズに沿った多様な学びの場を支えるセンター的機能の充実

**取組 (1) 幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実**

- ① 学校訪問を通じた情報提供及び助言
- ② 地域のニーズを把握した（授業づくり支援、研修会の実施、学校見学会等）センター的機能の実施
- ③ 障害理解学習の内容の充実と実施対象の拡大
- ④ 小・中学校、高等学校、特別支援学級等の研修の受け入れによる地域への啓発
- ⑤ 特別支援教育アドバイザー、教育委員会との連携による相談機能の充実
- ⑥ 小・中学校におけるミニ学校展や教材・教具展示の実施

**取組 (2) 関係機関との緊密な連携による地域の特別支援教育の充実**

- ① 支援内容に応じた連携会議の開催による情報共有
- ② 個別の教育支援計画を活用した放課後等デイサービスや関係機関との連携

**目標 3** 地域の一員として地域生活の基盤を築く、地域と学校双方における有益な関係性の構築

**取組 (1) CSを活用した地域の特色を踏まえた計画的な交流活動**

- ① ねらいを明確にした計画的な交流活動・地域貢献活動の展開
- ② 地域の学校における居住地校交流、交流及び共同学習の推進
- ③ 地域のニーズを踏まえた双方向の交流活動の推進
- ④ 卒業後の生涯学習や余暇活動に繋がる地域資源の効果的な活用
- ⑤ 地域学校展や報道機関を活用した情報発信と細やかな情報収集

**取組 (2) 地域のニーズに応じた学校施設等の整備・充実**

- ① 由利本荘市と連携した福祉避難所の計画的な開設準備
- ② 福祉エリアや保護者と連携した防災訓練の実施